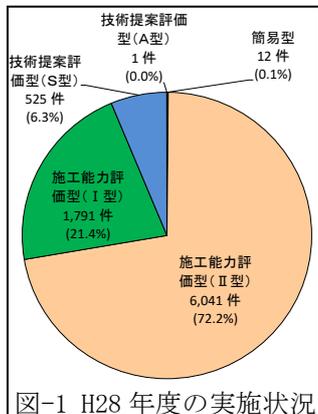


総合評価落札方式の施工能力評価型(I型、II型)における改善方針について

国土技術政策総合研究所 正会員 ○島田 浩樹
国土技術政策総合研究所 正会員 中尾 吉宏
関東地方整備局 常総国道事務所 富澤 成実

1. はじめに

国土交通省発注工事においては、平成19年度以降ほぼ全ての直轄工事で総合評価落札方式が適用されている。また、平成25年度からは契約タイプを技術提案評価型(S型、A型)と、技術提案を求めず企業・技術者の能力等で技術力を評価する施工能力評価型(I型、II型)に大きく区分した運用を開始しており、各地方整備局の平成28年度実施状況¹⁾(図-1)を見ると、契約タイプ別で最も多い施工能力評価型(II型)が6,041件、続いて施工能力評価型(I型)が1,791件と多く、総合評価落札方式の適用工事全体(8,370件)に占める割合は施工能力評価型だけで9割を超えている状況である。なお、近年この状況は、ほぼ変わっていない。



本稿では、より工事条件等に合った適切な技術力の評価項目等を検討するため、発注件数の大部分を占める施工能力評価型に着目し、評価項目(企業の能力等、技術者の能力等)やその配点(割合)、評価結果等に関する分析を行った結果を報告する。

2. 評価項目に関する分析

2-1. 分析対象データ

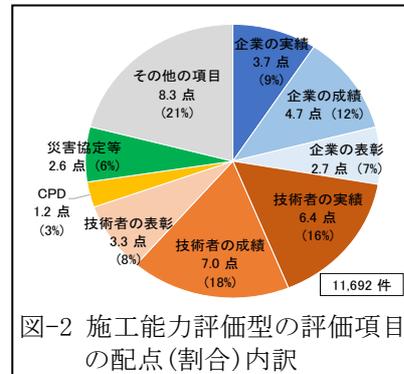
対象データは、各地方整備局に北海道開発局及び内閣府沖縄総合事務局を含めた平成26年度～平成28年度契約工事(施工能力評価型)の主要4工事種別(一般土木、アスファルト舗装、鋼橋上部、プレストレスト・コンクリート)の中から、採用率(設定件数/工事件数)90%以上の評価項目(「企業・技術者の実績」「企業・技術者の成績」「企業・技術者の表彰」「CPD

の取得状況」「災害協定等」)が全て設定されている工事(11,692件)とした。

2-2. 落札者の決定要因として影響のある評価項目

分析対象データを基に施工能力評価型の評価項目別の配点(割合)内訳を図-2、競争参加者(落札者と非落札者)の評価項目別の得点率内訳を図-3、落札者と非落札者の平均得点差を図-4に示す。

図-2に示す評価項目「企業の実績」の配点割合は全体の9%(3.7点)でそれほど高くない。一方、図-3に示す平均得点率は、落札者が

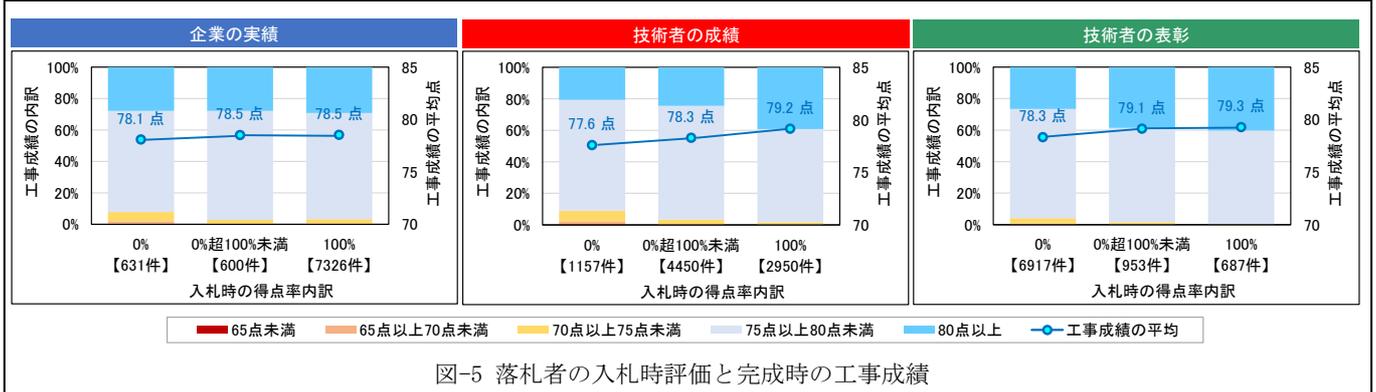
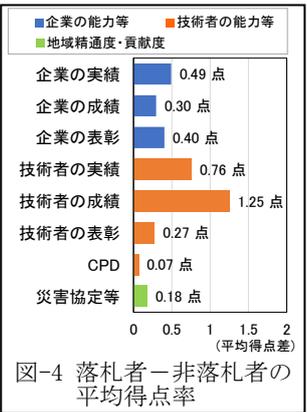
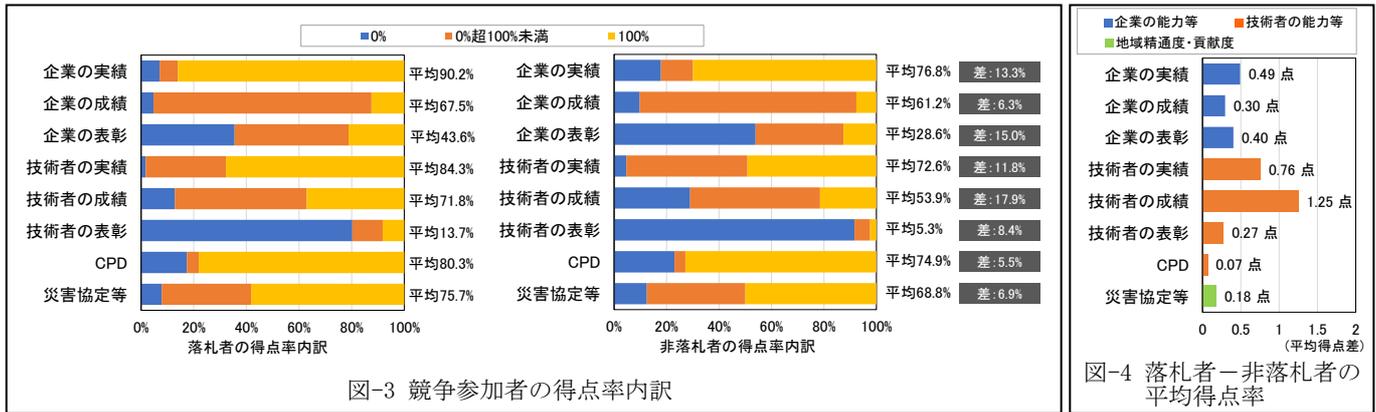


90.2%と高く非落札者(76.9%)との差も大きいことから、図-4に示す平均得点差が0.49点(3.7点×(90.2%-76.8%))と企業の能力等の中では差が付きやすい評価項目となっている。また、「技術者の成績」の配点割合は、全体の18%(7.0点)と最も高い。加えて、得点率の内訳では、他の評価項目と比べ、得点なし(0%)・中間点(0%超え100%未満)満点(100%)の割合のうち、得点なしと満点の割合に差が生じていることから、平均得点率も落札者(71.8%)と非落札者(53.8%)で他の評価項目と比べても差が大きい。このため、平均得点の差が1.25点と評価項目の中で最も大きくなっており、落札者の決定要因として影響が大きい評価項目と考えられる。

なお、「技術者の表彰」については、落札者(13.7%)と非落札者(5.3%)の平均得点率が最も低く、特に得点率0%の割合が落札者(80.3%)と非落札者(91.7%)共に高くなっており得点が取りにくい評価項目となっ

キーワード 公共工事、入札・契約、総合評価落札方式、評価項目、工事成績

連絡先 〒305-0804 茨城県つくば市旭1番地 国土技術政策総合研究所 TEL029-864-2211



ている。ただし、配点割合が小さいことから平均得点の差も 0.27 点と小さい。同様に、「企業の表彰」についても落札者(43.6%)と非落札者(28.5%)の平均得点率が低く、他の評価項目と比べると得点率 0%の割合が落札者(35.5%)と非落札者(54.0%)共に高い。そのため、得点が取りにくい評価項目となっている。また、落札者と非落札者の平均得点率の差は 15.0%と大きく、配点割合が少ない割に平均得点の差は 0.40 点となっている。

2-3. 評価項目の得点率と完成時の工事成績の関係

落札者の入札時評価と完成時の工事成績の関係を図-5 に示す。入札時評価で高得点者が多い評価項目である「企業の実績」に関して完成時の工事成績との関係を見ると、工事成績の内訳分布や平均点に大きな差異が見受けられないことから、入札時の得点率と完成時の工事成績に明確な関係性が見受けられない。

一方、入札時評価で落札者と非落札者の平均得点率の差が最も付きやすい評価項目である「技術者の成績」に関して完成時の工事成績との関係を見ると、入札時の得点率が高いほど工事成績が 80 点以上の件数が増え平均点も上昇していることから、得点率が高いほど完成時の工事成績が高まる傾向がある。

また、得点率 0%の割合が落札者と非落札者共に高く得点が取りにくい評価項目である「技術者の表彰」に関して完成時の工事成績との関係を見ると、入札時の得点率が有り(0%超)と無し(0%)で完成時の工事成績に差異が見られる。

3. おわりに

施工能力評価型の評価項目には、完成時の工事成績の向上に寄与している評価項目と、工事成績との明確な関係性が見受けられない評価項目があることが分かった。今後、工事の成績など品質への寄与度も考慮した適切な技術力評価の検証を更に進め、総合評価落札方式の一層の改善を図る予定である。

最後に、今回の分析を行うにあたり、各地方整備局をはじめ北海道開発局、内閣府沖縄総合事務局の方々にはデータ提供等、多大なご協力を頂いた。ここに記して深く感謝する。

参考文献

1) 直轄工事における総合評価落札方式の実施状況【平成 28 年度】(総合評価方式の活用・改善等による品質確保に関する懇談会(平成 29 年度 第 1 回)) http://www.nilim.go.jp/lab/peg/sougou_hinkakukon.html